

令和7年度第2回高知県子どもの環境づくり推進委員会 会議の概要

1 日程及び議題

日 時：令和7年10月12日（日） 14:00～15:30

場 所：高知県庁本庁舎2階 第二応接室

議 題：

- (1) 前回質問に対する担当課の回答について
- (2) 令和7年度子ども条例フォーラムの開催報告及び次年度について
- (3) 「子どもの環境づくり」に関する意見交換

2 会議の概要（委員からの主な意見）

事務局説明：(1) 前回質問に対する担当課の回答について
資 料：議事（1）

- 前回、子どもの環境づくり推進計画の総括資料について説明を行った。その際、委員から質問のあった事項について、各課の回答を事務局から紹介した。

○委員

- ・協力の申し出をいただき、実際に小動物管理センターを見学した。
- ・動物愛護について新しい学びがあり、「小学生に向けての出前講座で、どういったことを小学生に教えたほうがよいか」等を質問し、回答いただいた。
- ・この11～12月に、2つの小学校で出前講座をする予定なので、今回の件を活かして進めていきたいと思っている。

事務局説明：(2) 令和7年度子ども条例フォーラムの開催報告及び次年度について
資 料：議事（2）

- 事務局から令和7年度子ども条例フォーラムについて開催報告を行い、来年度の事業に向けて委員からのご助言をいただいた。

○委員

- ・フォーラムは楽しくて堅苦しくなく、和気あいあいとした良い会だった。来年も同じ形であれば参加したい。
- ・作品を作るのは楽しいが、グループ内で知らない人と話す機会が少なかったのが課題。
- ・未来に対する感じ方や美的価値観の違いにより、作品に違いが生まれた。
- ・芸術に堅苦しきではなく柔らかさが生まれた印象。
- ・広告が女性向け寄り、男性の興味を引くには工夫が必要だと思う。

○委員

- ・良かった点は3つ
 - 1 体験型プログラムで、その場でしか作れないものが作れて誘いやすかった
 - 2 有名人が来たことでZ世代に刺さった
 - 3 そこでしかもらえないグッズ（バック）が好評
- ・友人も楽しみ、自由時間に友達の作品を見回るのも楽しかった。
- ・人が少ないのは委員の誘い方次第だと思う。
- ・風刺画など多様な表現があり、未来のテーマが広くて良かった。
- ・男子向けは工業系や物作り系の方が興味を引きやすい。
- ・動画でフォーラムの様子を配信するのは賛成。

○委員

- ・ポジティブな意味で作品を作っていたからこそ、「高知に住みたい（戻りたい）」と思う人の割合が増えたのだと思う。
- ・参加人数が多かったのは体験型かつ美術に絞ったから。
- ・SNS 広告は TikTok も活用すべき。
- ・ゲームやプログラミングなどは男女共通で興味関心が高い。
- ・顔が映る動画は抵抗がある人がいるので手元を映すなどの対応が望ましい。

○委員

- ・参加できなかったが、話を聞いて体験型で楽しそうだったと感じた。
- ・難しいディスカッションテーマよりも未来のような抽象的で考えやすいテーマが良かった。
- ・男子が興味を持つ内容（工学やスポーツなど）に体験内容を上げると良い。

○委員

- ・参加できなかったが、以前は少人数ディスカッション中心で話しやすかった。
- ・知らない人と話せる機会があると参加が増えると思う。
- ・学校で配られるチラシは自分ごとと感じづらく、SNS や動画配信に力を入れるべき。
- ・芸術系は男子が誘いにくいのでスポーツやものづくり系を増やすと良い。

○副委員長

- ・物を作ることで達成感があり、参加者同士の心の交流や新しい発見があったと思う。
- ・未来に対する思いが広がり、フォーラムの目的に近づいている。
- ・ゲストの人柄も参加者を引きつけたと思う。
- ・SNS 広告活用を推奨。

○委員

- ・今回、小学生～高校生が参加しているが、異世代交流が減ってきているのが問題。
- ・異世代交流は子育てや人間性形成に重要。
- ・参加者や委員が SNS で発信すれば集客の助けになると思う。
- ・宿毛や須崎など地域ごとに開催し講師を活用して広げていくのが望ましい。
- ・学年や学校を超えた交流は成長に良い影響がある。

○委員長

- ・男性参加者がほぼいなかったことが課題。性別関係なく興味を持ちやすい内容を模索すべき。
- ・申し込みや宣伝方法は SNS 広告やポスター掲示が有効と思われる。

【各委員からのご意見を受けての事務局からの回答】

- ・本来中高生対象だがファンの小学生も特別参加。
- ・広報はインスタグラム、X（旧 Twitter）、TikTok の活用を検討したい。
- ・動画配信は顔を映さない工夫（手元だけなど）や事前説明を徹底する予定。
- ・SNS 活用による広報強化を進めたい。
- ・フォーラム当日は作品制作時間が多く、意見交換の時間や全員が話す時間を増やす工夫も検討中。
- ・企画自体は良く人数も増えたが、男性参加の少なさは課題。
- ・男子も興味を持つテーマを考えバランスを取る必要。
- ・広報については従来のチラシより SNS を強化していく方針。
- ・参加者が友達とだけ話す傾向があるのでグループ内交流を増やす工夫が必要。
- ・学年・学校を超えた交流は将来に繋がる重要な取り組み。

事務局説明：(3)「子どもの環境づくり」に関する意見交換

- 「子どもの環境づくりの面で、今の高知県に足りないもの」をテーマに、雑談形式で意見交換を行った。

○委員

- ・若者が高知県から出ていく最大の理由は、楽しめる施設が少ないこと。イオンくらいしか行くところがない。
- ・高知県は自然豊かだが、それは「スローライフを楽しむ場所」という印象を与える。
- ・若者よりも定年退職後のスローライフを楽しみたい人が多いと思う。
- ・遠方（四万十など）にある施設へは親の協力が必要で、もっと身近に友達だけでも気軽に行ける施設がほしい。
- ・ポケモンと自然を組み合わせたイベント（例：水タイプの川の綺麗さを生かしたアクティビティ）な

どをすれば、子どもも親も若者も来やすい。

- ・自分の弟の世代は外で遊ぶより家の中でゲームをすることが多く、もっと外で遊ぶ体験を増やす必要がある。
- ・地域との関わりを感じるイベント（昔の地区運動会など）があれば地域の繋がりが増え、子育て環境も良くなる。
- ・お金の問題で県外の大学進学も厳しく、奨学金を使っても生活費の負担が大きく、経済格差で勉強環境に差が出る。
- ・子どもがバイトに迫われ勉強時間が減る可能性があり、格差が学びの機会に影響していると感じる。

○委員

- ・近場に遊びに行く場所が少なく、移動に車が必要なことが多いのが問題。
- ・新しいカフェなどができて友達と行くにはお金がかかるため、イオンやカラオケの方に流れやすい。
- ・アニメ系のコスプレイベントは人が多く盛り上がり、男性も参加しやすいので、こうしたイベントや催し物も検討すると良い。
- ・自然が近くにないと、高校生くらいになると遊びに行かなくなる。
- ・学校での活動は受け身に感じる事が多く、目的もわからず「やらされている」感がある。活動後に考えを共有する場があるのが良い。
- ・子どもが自分事として考えられるようにサポートすることが大切。

○委員

- ・お金をかけずに楽しめることが一番重要。
- ・小学生時代に青少年の家での自然体験やお泊まり会が人気だった。大人の目があり、安全な範囲で親の許可もそれほど必要ないような中高生が参加できる自然体験イベントがあれば、青春の新しい形になると思う。
- ・学校近くの漁港と連携し、地域の婦人部による食育教室や地産地消の取り組みが印象的でうれしかった。

○委員

- ・地域でキャラクターを活用したイベントがあると良い。昔の「ポケモン」や「たまごっち」などのレトロなキャラクターが流行っているので、それを活用した企画も良いのでは。
- ・釣りは男子の間で人気がある。
- ・親の経済状況に差がある中で、子どもの育ちを平等に保障できるかが課題。
- ・自身や周囲は経済的に恵まれた環境だが、経済格差で学習の機会に差があることに疑問を感じている。
- ・将来の選択肢が狭められており、また他の選択肢を知らないということが問題。
- ・学習習慣を身につける環境づくりが重要。経済格差など関係なしに、日々の学習習慣を身に付けられ

る環境を作っていくにはどうすればよいか、考えたい。

○委員

- ・高知県は自然豊かだが、逆にありすぎて活用がうまくいっていない。例えば鏡川や仁淀川で遊べる施設・イベントがあれば利用が増える。
- ・地域と子どもと一緒に自然や地域の課題を探求・イベントを企画することは重要。地域ごとのイベントで地域内外の交流を促すべき。
- ・地域の人も子育てに積極的に関わることが必要。地域全体で子育てを支える環境づくりが重要。
- ・地域の人の子育て家庭を支援する姿勢が大切で、お母さんたちが安心して子育てできるよう地域も巻き込むべき。

○副委員長

- ・子どもと大人と一緒に学べる環境というのが、これから大事になってくると思う。
- ・子どもにとって「本当に学びが楽しい、充実している」といった環境づくりをしていくには、教職員の力だけでは難しい。地域の人と子どもが共に関わることが重要。
- ・学校での地域を巻き込んだ行事や活動を通じて、保護者同士（または保護者と地域）の交流を促進していくことも大事。
- ・地域イベントや防災運動会も環境づくりに効果的。
- ・（経済格差の中での学びの平等について）カウンセラーやソーシャルワーカーを活用して子どもや保護者のサポートにも力を入れている。

○委員長

- ・「総合的な探求の時間」の中で、地域の方の協力を得て地域課題等に取り組んでいる学校もある。
- ・（経済格差の中での学びの平等について）各種支援制度が意外と知られていないので、周知することが大切。

【各委員からのご意見を受けての事務局からの回答】

- ・昔は自然での遊び（川遊びや釣り）が普通だったが、今はゲームなど屋内活動が主流になっている。
- ・国の教育支援制度（高校授業料無償化や大学授業料免除など）は徐々に広がっているが、まだ課題が多い。
- ・地域でも支援のための取り組みが少しずつ進んでいる。
- ・学校や地域の研究機関と連携して課題解決を探る必要がある。
- ・若者に高知の魅力を再発見してもらいたい。

以上